

チャレンジ! 6次産業化

若き挑戦者たち

地域の活性化や雇用創出などをめざす「6次産業化」。秋田市がこの事業に取り組み始めて3年を迎えました。今年度もさまざまな支援体制を充実させる一方で、地域では頼もしい「いぶき」も芽吹き始めています。そんな6次産業化の今をご紹介します。

問い合わせ 農林総務課 6次産業担当 (010)211-150



柳上新城スーサンビレッジの柳さん(右)と藤田さん



「ハビネットツヴェイレッジ構想」の取り組みで、4月、上新城小学校児童がブルーベリーを植え付けました。市では、このようなモデル的事业も支援しています

④本格的な事業化を促すため、農産加工施設の整備や技術・研究などを支援

への参入を促進

- ### 6次産業化
- #### 秋田市の取り組み
- 6次産業化とは、農畜産物や水産物などの生産(1次産業)と加工(2次産業)、販売(3次産業)を一体化し、農林水産業を中心に、地域で新たな付加価値を生み出そうとする試みのこと。
- 市では、次の4本の柱を軸に、さらに6次産業化を進めます。今年度は、今まで研修に参加したかたなどが、実際に6次産業化に取り組むための支援に、より力を入れていきます。
- ① 6次産業化を担う人づくり・気運醸成のため、研修やPR活動を実施
 - ② 有望な1次産品の発掘と商品創出のため、市内の農林水産資源を活用した商品開発や販路拡大を支援
 - ③ 6次産業の芽を育てるため、モデル的事业を支援するほか、農家の加工

上新城地区で始動！ “ハピネッツヴィレッジ構想”

自然豊かな上新城地区。今ここで、6次産業化の新たな取り組みが始動しています。それが「ハピネッツヴィレッジ構想」。これは、旧上新城中学校周辺を拠点に、地元農業者やプロバスケットチーム・秋田ノーザンハピネッツが協力して、周囲が一体となって、農業を中心とした地域活性化を図ろうとする取り組みのこトです。

「食」とスポーツの連携を図る

この構想の「幹」になるのが、1月に設立された農業法人(株)上新城ノーザンハピネッツ。同社取締役の奥田慎一郎さんは「ハピネッツと連携し、そのブランドを活かして、秋田の豊かな食をもっと県外のかたに知ってもらいたい」と、同時に地元のかたとの交流、子どもの食育の場としての機能も果たしていければいいですね」と話します。

構想が具体的に動き出したのはこの春。まずは旧上新城中のグラウンドで畑作りを開始し、ハピネッツカラーのピンク色のブルーベリーや、学校給食用のじゃがいもなどを周辺地域の小学生と一緒に植えました。今後、収穫した農産品の加工や農家レストランの運営、チーム選手と市民の交流などを行えるようになるのが当面の目標です。

(株)上新城ノーザンハピネッツ 取締役の奥田さん



自身も農業に携わる奥田さんは「農業は難しい。1年目の今年は助走期間です。実際に野菜を作り出し、地につけた農業をめざします。将来的に、ハピネッツのメンバーと一緒に収穫するなど、ファンイベントに農業を組み込めたらおもしろいかな」と、そのアイデアの一端を教えてくださいました。

「夢」を耕す若い力

そして、「夢が詰まった」畑を実際に管理しているのが、同社社員の柳智仁さん、藤田裕貴雄さん、伊賀翔さんの3人(いずれも20代!)。県外出身の柳さん(東京)と藤田さん(広島)が秋田にやって来たのは、「農業を仕事にした」という強い思いからでした。

入社後、早速グラウンドの開墾から始まった農作業。土を掘り返し、近くの川でタンクに水を汲んで持つてくるなど、慣れない寒さの中ではその作業もひと苦労。でも、地元のかたにこの地の土壌の質を教えてもらったり、トラックや重機を貸してもらったりと、みなさんの温かい協力を得ながら、日々前に進んでいるとのこと。

「毎日が楽しい。成長する作物や自然の変化に、日々発見があります」と柳さん。藤田さんも「農業の良さを子どもたちに伝えたいです。じゃがいもを植えた飯島南小の子どもたちが、興味を持ったようで、学校でも苗を植えてくれた時はうれしかったな」と笑顔で話してくれました。

でも、「まずは順調に収穫できるよ」に畑作りを成功させることが大事。その上で6次産業化に取り組み、多くの人に商品を食べてもらいたいです。プレッシャーもあるけど楽しいから頑張れる。気を引き締めてがんばります!」と2人とも力強く答えてくれました。

地元・上新城も一丸で



構想を支える
地元協議会の
渡辺さん

地元として支援するハピネッツヴィレッジ構想協議会事務局次長を務める渡辺一幸さんは、「上新城は、地域のまとまりは良いけど、外との交流が今まで少ない地区だったと思います。この構想を通して、さまざまなかたと交流し、自然豊かな上新城を広く知ってもらいたいですね。今までにない、新たな展開がこの地区に起こればうれしいです」と期待を込めて話します。

そして、今後は地元のみなさんでこの取り組みに全面的に協力して盛り上げていきたいと、その次のステップを見据えている様子でした。

さまざまな人たちが関わり、動き出したばかりの「ハピネッツヴィレッジ構想」。若者の夢、地域の夢が「たわわな実」に育つのが今から楽しみです。



次のページにも
6次産業化の
チャレンジャーが
登場!